

東海道五十三次 27 番目の宿場



令和8年1月23日
袋井市長定例記者会見資料
教育部生涯学習課

大門遺跡から弥生時代の絵画が描かれた土器を発見 ～壺の形状と絵画の全体の状況がわかる全国的にも貴重な出土品～

- ◇袋井市教育委員会が、土地区画整理事業に伴って実施している大門遺跡発掘調査において、弥生時代の動物や銅鐸、建物などの絵画が描かれている土器を発見した。
- ◇出土場所は、袋井南コミュニティセンターの南（2024年度調査区64区）。大きな溝の中から大量の土器が密集した状態で出土し、出土品の整理作業を進める中で当該土器を確認した。
- ◇出土品は、弥生時代中頃の壺型の土器、墓と思われる場所で出土しており「マツリ（葬送）」などで大切に使用されていた可能性がある。壺の形状と絵画の全体の状況が分かる状態での発掘は全国的にも大変めずらしい。貴重な出土品を多くの市民に見てもらうため、近藤記念館にて2月17日（火）から特別展示を行う。

【概要】

- 1 経緯 現地調査 2025年1月～2月
遺物整理 2025年6月～現在（整理中に発見）

- 2 出土場所 袋井市高尾992-2番地付近（地表下20cm）

- 3 発見された土器について

- (1) 年代 弥生時代中頃（約2,000年前）
(2) 形状 壺形
(3) 大きさ 器高約34cm、口径約11.5cm、胴部最大径約27.5cm、底径約6cm
(4) 特徴 土器に描かれた絵画

土器の胴体部分は太い線で3区画に区切られており、各区画に異なった絵画が描かれている。
また、壺の口の中にはレンズ形の線刻が2か所描かれている。

区画①：4本脚の動物と思われるもの

区画②：レンズ形の銅鐸と思われるもの

区画③：格子状の線刻で描かれた建物と思われるもの

※抽象的な絵画であるため、解釈には諸説あり

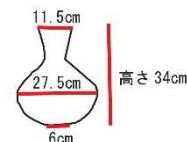
- 4 特別展示

- (1) 期間 2026年2月17日（火）～3月1日（日） ※壺の状態により期間変更の可能性あり
(2) 時間 午前9時00分～午後5時00分
(3) 会場 近藤記念館

【発見された絵画土器の3Dモデル】



【出土場所】



【絵画 模式図】



【お問い合わせ先】

袋井市 教育部 生涯学習課 文化財係（担当：深澤）

電話：0538-23-9264 FAX：0538-23-9230 メール：mai-f5041@city.fukuroi.shizuoka.jp